

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 6 日現在

機関番号： 34605
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2011
課題番号：20530581
研究課題名（和文） デス・エデュケーションに関するアクションリサーチ：在宅ターミナル
推進への社会貢献
研究課題名（英文） Action research about death education : Contribution to society to the
promotion of terminal care at home
研究代表者
河野 由美（ KONO YUMI）
畿央大学・健康科学部・看護医療学科・教授
研究者番号：10320938

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会心理学

キーワード：デス・エデュケーション，ターミナルケア，アクション・リサーチ，社会心理，看護

1. 研究計画の概要

本研究の目的は訪問看護師と協働したアクション・リサーチを実施し，得られた知見を在宅ターミナル推進に活用することを目的としている．また，「死の重要性・顕在性」の高まりに関連した Death Education（死への準備教育）の実施が宗教観や死への態度，死の不安に影響すると仮定した Tomer & Eliason（2000）の CMDA モデルの有効性を検討することである．

2. 研究の進捗状況

本研究は4年計画の研究であり，3年間の研究進捗状況を以下に報告する．3年間，訪問看護ステーションに勤務する訪問看護師に研究協力の要請をし，在宅ターミナル推進のためのアクション・リサーチを実施した．訪問看護師と協働して，「退院時」「ターミナル前期」「ターミナル後期」の3種類のリーフレットを開発し，終末期の在宅療養者・家族に使用することにより，その有効性を検討した．また在宅での看取りに関する事例を収集するためのデータシートを協働で作成し，それを基にして記録を行い，3年間で45事例

の在宅ターミナル療養者・家族の事例データを収集した．あわせてアクション・リサーチの過程で訪問看護師にインタビューを実施した．本年度で訪問看護師と連携したアクション・リサーチは終了し，最終年度ではアクション・リサーチの結果や収集したデータを詳細に整理・分析し，研究成果を広く社会に公表するための準備時期としている．なお，本研究の目的の一つに，CMDA モデルの有効性の検討がある．平成20年度～22年度の3年間，市民を対象にしたターミナルケア講座の講師を担い，受講者にデス・エデュケーションの認識に関するアンケートを継続実施した．この3年間のデータを基に CMDA モデルの有効性を検証し，日本心理学会で発表した．また，研究3年目には，病院の看護師にアンケート調査を実施した（配布数428通，回収数395通）．この看護師へのアンケート調査からも CMDA の有効性の検証や，在宅ターミナル推進を阻害する要因等に関して，2011年の日本心理学会，日本社会心理学会，日本看護研究学会で発表するよう既にエントリーを完了している．

開発した3種類のリーフレットは，看護系

学会での発表を通して情報を発信するとともに、ホームページを開設し、科研費の成果であることを明記した上で、希望者には無料でダウンロードできるようにしている。

3. 現在までの達成度

「おおむね順調に進展している」と自己評価する。その評価理由は、研究代表者の所属変更等に伴い、研究協力者への要請が一部困難な状況に達したが、当初の研究目的は概ね達成できていると考えているため。

4. 今後の研究の推進方策

これまでの3年間は現場でのアクション・リサーチやデータ収集を集中して実施した。最終年度の今後は得られたデータを詳細に整理・分析し、研究成果を広く社会に還元できるように公表する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

1. 河野由美, 仏教看護・ビハーラ学会誌 仏教看護・ビハーラ 第3号, (査読有), スピリチュアリティ(霊性)と宗教に関する計量的研究, 2009, 50-64.

[学会発表] (計 4 件)

1. 河野由美, デス・エデュケーションに関する調査—死の不安モデルに関して—, 日本心理学会第74回大会, 2010年9月, 大阪大学.
2. 河野由美・野口忍, 在宅ターミナル療養者・家族に向けたリーフレットの作成—アクションリサーチの過程から—, 第29回日本看護科学学会学術集会, 2009年

11月, 千葉 幕張メッセ.

3. 野口忍・河野由美, 療養者の看取りの場所に影響する要因, 第33回日本死の臨床研究会年次大会, 2009年11月, 名古屋国際会議場.
4. 河野由美, 遺族の死別後の主観的变化に影響する要因, 日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミクス学会第56回大会合同大会, 2009年10月, 大阪大学.

[その他]

<http://www.geocities.jp/yumikonokio/>